

## 女子大学生が快適に過ごせるキャンパスデザインの研究

Campus design for women's university student

堀場 愛弓<sup>1</sup>, 中川 麻子<sup>1</sup>, 森田 舞<sup>2</sup>, 嶺野 あゆみ<sup>2</sup>Ayumi Horiba<sup>1</sup>, Asako Nakagawa<sup>1</sup>, Mai Morita<sup>2</sup>, and Ayumi Mino<sup>2</sup><sup>1</sup>大妻女子大学家政学部被服学科,<sup>2</sup>株式会社岡村製作所マーケティング本部オフィス研究所パブリック研究室

キーワード : 女子大学生, キャンパスデザイン, 空間デザイン

Key words : Women's university student, Campus design, Spatial design

## 1. 研究目的

大学のキャンパスは、学生の学びの場であるとともに、学生生活を有益に過ごすための生活基盤である。また充実したキャンパス環境は、学生の大学への帰属意識を高めると共に、愛着心の形成にも働きかける。学生の多くは魅力的で快適なキャンパスで学ぶことを望んでおり、その要望は年々強まっている。近年では私立大学の施設拡充が進むと共に、平成 22 年に文部科学省が「戦略的なキャンパスマスタープランづくりの手引き」を提案したことで、国立大のキャンパスが改善されるなど、キャンパスデザインへの社会的関心は高い。しかし、こうした提案は男女共学大学を対象としたものであり、女子大学生の要望に十分に答えるものとはいえない。将来、女性の活躍が期待される社会に向けて、優れた女性リーダー育成を行うためにも、女子大学生が快適に過ごせる女子大学のキャンパスデザインの検討は急務である。

本研究は女子大学に向けたキャンパスデザインについて調査を行い、基礎的研究としてまとめ、新たな女子大学キャンパスデザインの提案を行うことを目的としている。

## 2. 研究実施内容

本研究は、5 期に分けて調査・研究を行った。

まず第 1 期では、大学生への調査準備として、大妻女子大学千代田キャンパス、多摩キャンパスの調査に向けた簡単な質問紙を作成し、少人数へのプレ調査を行った。さらに、プレ調査の結果から調査方法の修正・改善を行い、本研究の調査方法を、キャンパスアメニティに関する不満とそれに対する改善案を 8 つ、自由記述で

回答する質問形式とした。

第 2 期では、大妻女子大学千代田キャンパスの女子大学生約 140 名を対象に、第 1 期で作成した質問シートを用いて、アンケートおよびインタビュー調査を実施した。調査から、千代田キャンパスでは、学食やラウンジといった授業以外で使用するスペースについての不満が多くあることが明らかとなった(図 1)。次いで、トイレ等のアメニティ空間における要望も多くあがり、パウダールームの完備といった女子大学生独自の意見もみられた。

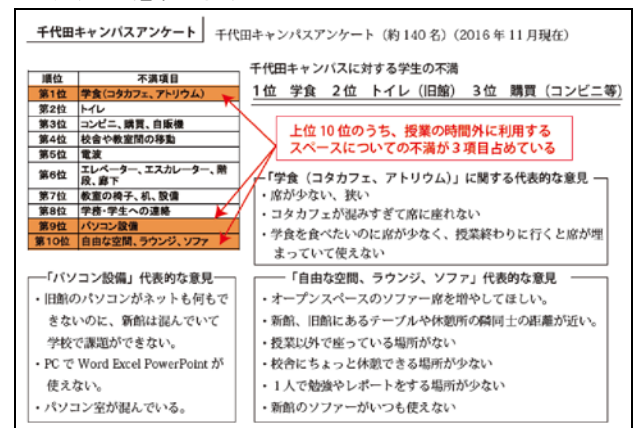


図 1. 千代田キャンパスアンケート結果

特に、ラウンジ等スペースについて、なぜこのような不満が多いのかを明らかにするため、本学の学食およびラウンジスペースの使用状況を調査し、現状把握を行うこととした。主に、授業時間中の 10 時から最も混雑する 12 時、ピークを過ぎた 14 時頃を調査時間とし、学生の行動実態調査を行った。その結果、どのスペースにも共通してみられたのは、1 グループの学生

による長時間の利用, 4人がけテーブルを2人で使用する, 荷物置き場として使用する等といったテーブル席の占有であった. こういった長時間利用による座席回転率の低下やテーブル席の占有によって生じた無駄なスペースが実際の座席数よりも使用できる座席数を減少させ, 女子大学生のキャンパスの不満につながった (図2).



図2. アトリウムの行動調査結果

次に, 本学多摩キャンパスに通う女子大学生約140名に同様のアンケート調査を行い, 各キャンパスの不満点, 要望を調査した. 多摩キャンパスでは, 千代田と共通である食堂や空き時間のスペースに関する不満や授業時間以外の過ごし方や千代田キャンパスへの憧れといった, 多摩キャンパス特有の悩みも多くあがり, キャンパスによって学生の要望が大きく異なることが明らかとなった.

第3期では, 都内同規模の女子大学および男女共学大学において同様の調査を約30名に行い, 大妻女子大学との比較を行った. 他大学においても, 学食・ラウンジスペースへの不満が多くあげられた.

第4期では, これらの調査結果から, キャンパスデザインに対する大学ごとの特徴, 学生の性別による要望を比較し, 郊外型と都市型キャンパスでは異なるキャンパスデザインが必要であること, また女子大学特有の要望を踏まえた独自のキャンパスデザイン計画が必要であることを導きだした.

第5期では, 第4期の調査の結果から, 具体的なキャンパスデザイン提案をCGによって制作し, 実際に女子大学生から意見を聞き, キャンパスデザインへの具体案を探った.

### 3. まとめと今後の課題

女子大学生のキャンパスに対する要望として, 主に学食やラウンジスペースといった授業以外で過ごすアメニティ空間に関するものが多くあげられ, また, 郊外型のキャンパスではキャンパス特有の要望が多くあげられた. 同じ女子大学内においても, 都市型と郊外型によって, キャンパスデザインの学生要望は大きく異なることが明らかとなった. 女子大学生が快適に過ごせるキャンパスデザイン計画において, それぞれの立地やキャンパス環境に考慮したアメニティ空間のデザインや女子大学生特有の要望をふまえたデザインが重要であることを導き出した (図3).

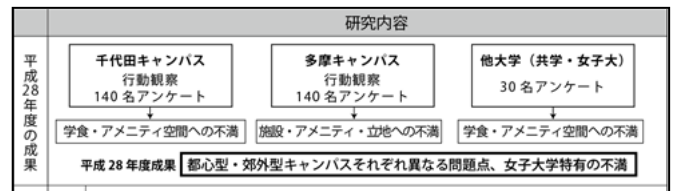


図3. 今年度の研究成果

今後は, 大学全体を通してキャンパスアメニティ空間, 学食などに対する要望の調査や郊外型キャンパス特有の空間に関する研究が必要であり, より発展させていくことが課題となる.